

成瀬ダムの豆知識

Q1-1	成瀬ダムは、どこに造られるの？
Q1-2	成瀬ダムの役割(目的)はなんですか？
Q1-3	成瀬ダムの構造を教えて？
Q1-4	ダムの高さは？
Q1-5	ダムの長さは？
Q1-6	ダム湖が出来たときの広さはいくらあるの？
Q1-7	ダムに貯められる水の量は、どのくらいなの？

※ 本ホームページは、適宜更新して参ります。

Q1-1

成瀬ダムは、どこに造られるの？

回答

成瀬ダムは、秋田県を南北に流れる「雄物川」の上流にある支川成瀬川に建設するもので、その位置は、東成瀬村椿川地内です。



Q1-2

成瀬ダム の 役割(目的)は 何 ですか？

回 答

成瀬ダムは、雄物川沿川の洪水被害の軽減、水需要への対応や渇水被害の軽減を図るため、5つの役割を果たす多目的ダムです。

成瀬ダムの5つの役割

1 洪水の被害を減らします。

大雨の時、川に流れてくる水の大部分をダムに貯めて、ダム下流の成瀬川・皆瀬川・雄物川の流れる地域が受ける洪水からの被害を減らします。



2 美しい川の流れを確保します。

水不足の時には、川に住む動植物を保全するためダムに貯めた水を流し川の水量を増やします。



3 農業用水として利用されます。

成瀬川・皆瀬川・雄物川が流れる地域の農地約10,050ヘクタールに安定した農業用水を確保します。



4 水道用水として利用されます。

ダムで貯めた水をダム下流の湯沢市・横手市・大仙市の水道用水として使用されます。



5 電気をおこしてくれます。

ダムの落差を利用した、環境にやさしい水力発電で最大5,800kwの電気をおこします。

100wの電球を58,000個つけて使える電力量です。



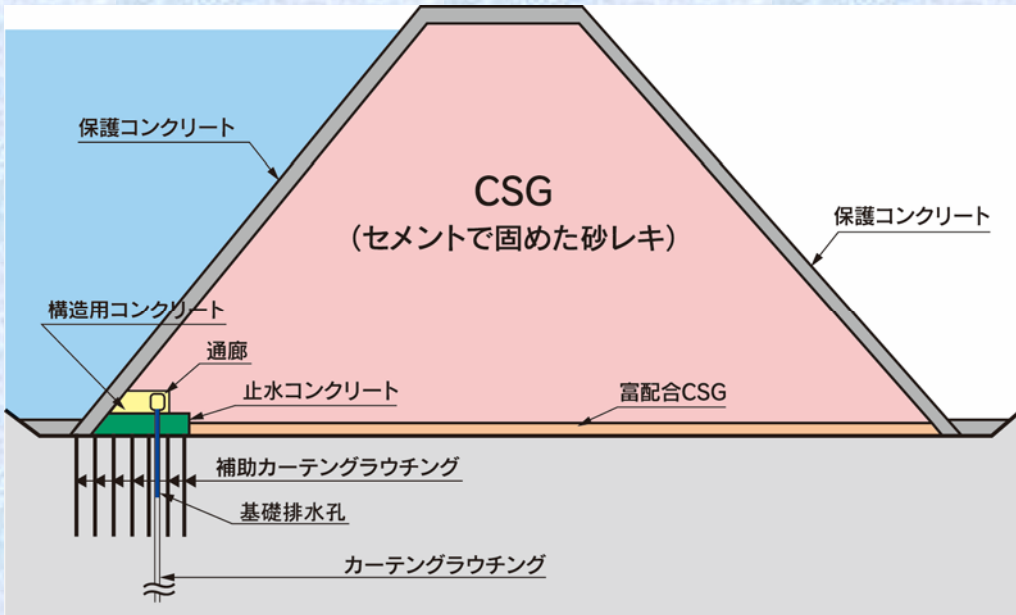
Q1-3

成瀬ダムの構造を教えてください？

回答

成瀬ダムは、砂礫をセメントで固めて造る「台形CSGダム型式」の構造で計画しています。

新たな技術である台形CSGダムを採用することにより、**堤体積の縮小・堤体施工の効率化が可能となり、堤体工施工期間の短縮と自然環境への影響低減が可能となります。**



汎用機械での施工が可能となる台形CSGダム堤体の施工状況

ロックフィルダム堤体施工盛立
・大型機械による施工(胆沢ダム)



台形CSG堤体盛立状況
・汎用機械での施工が可能(金武ダム)



※台形CSGダムの工法は手近に得られる材料を有効に使い、粒度調整、洗浄を行うことなく簡易な設備、汎用機械で施工するため、施工の簡略化、環境への影響低減、コスト縮減、高速施工が可能となります。

Q1-4

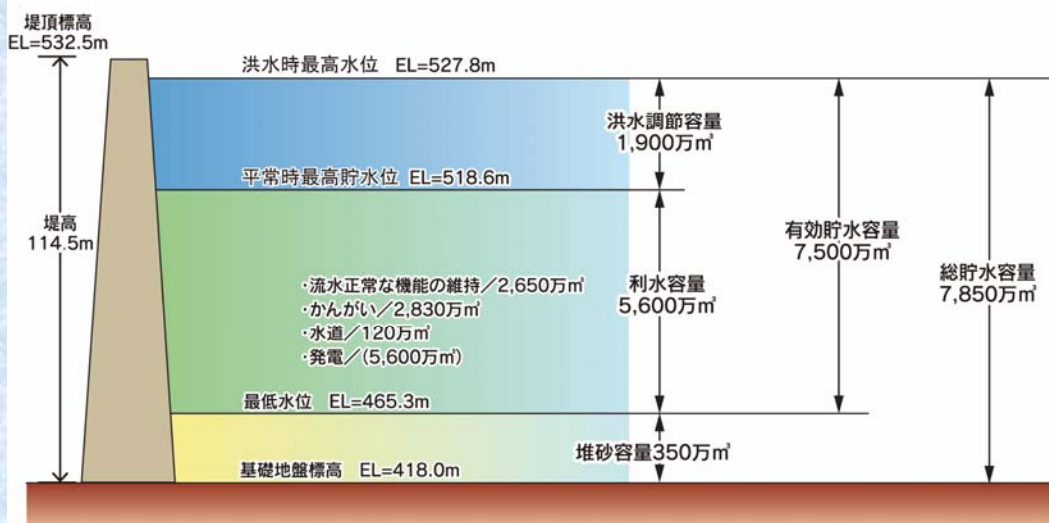
ダムの高さは？

回答

成瀬ダムの高さは、114.5mです。



貯水池容量配分図



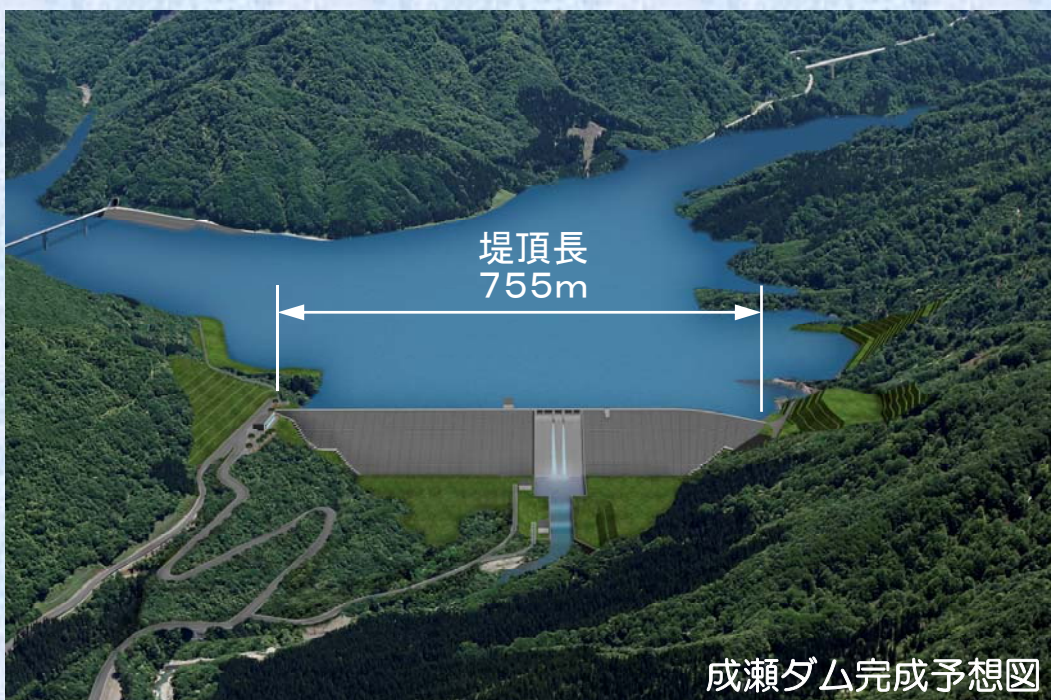
※成瀬ダムの諸元は現時点のものであり、今後変更する場合があります。

Q1-5

ダムの長さは？

回答

成瀬ダムのダム堤頂の長さは、755mです。



※成瀬ダムの諸元は現時点のものであり、今後変更する場合があります。

Q1-6

ダム湖が出来たときの広さはいくらあるの？

回答

成瀬ダムが完成し、水を貯めたときの湖の面積は、2.26km²*1の広さとなります。



※ダムの貯水池に洪水時最高水位まで水が貯まったときの面積です。

また、成瀬ダムの諸元は現時点のものであり、今後変更する場合があります。

Q1-7

ダムに貯められる水の量は、どのくらいなの？

回答

成瀬ダムが完成したときに、貯められる水の最大量は、7,850万 m^3 の水量となります。



※成瀬ダムの諸元は現時点のものであり、今後変更する場合があります。

? ? ?
成瀬ダムの豆知識
? ? ?

2. よくある質問

Q2-1	雄物川流域の水害はどのようなものがあったのですか？
Q2-2	雄物川流域の渇水被害はどのようなものがあったのですか？
Q2-3	成瀬ダムの地盤は、安全なのですか？
Q2-4	成瀬ダムができると川の濁りが長期化するのではないですか？
Q2-5	成瀬ダム周辺に重要種はどれくらいいるのですか？
Q2-6	ダム建設に伴い重要な動植物の保全措置はどのように行うのですか？
Q2-7	新聞記事では、「イヌワシ」「クマタカ」が工事現場付近に生息しているそうですが、ダム建設工事の影響はないのですか？
Q2-8	新聞記事では、建設予定地で「クマゲラの古巣」とみられる跡が発見されたと書いてありましたが、成瀬ダムにクマゲラはいるのですか？
Q2-9	新聞記事では、建設予定地で風穴群が発見されたと書いてありましたが、この風穴群について教えてください。
Q2-10	成瀬ダムができると赤滝はどうなるのですか？
Q2-11	夢仙人大橋から栗駒山方向へトンネル工事をしていますが、いつごろ開通するのですか？
Q2-12	成瀬ダムの工事現場を見たいのですが、いつでも見学できますか？また、現場見学会のようなものは開催していますか？

※ 本ホームページは、適宜更新して参ります。

Q2-1

雄物川流域の水害はどのようなものがあったのですか？

回答

雄物川流域では過去幾度も洪水が発生し、特に明治27年8月洪水では雄物川流域に未曾有(みぞう)の被害をもたらし、人畜の死傷、家屋の流失、船舶の流失被害等、大惨事になった記録が残っています。

戦時中には、昭和19年7月に大きな洪水が発生し、続いて昭和22年7月には戦後最大の洪水が発生し、流域平地部の約60%が浸水し、戦後の混乱期と相まってその被害は甚大なものになりました。

また、人々の記憶に新しい洪水として、昭和62年8月洪水では大仙市で家屋や農地、地域の主要な道路が浸水、平成23年6月洪水では、玉川合流後の中流部でまだ堤防の無い区間に家屋や農地の浸水被害が集中しました。

成瀬ダムの建設により、雄物川本川、支川成瀬川、皆瀬川沿川地域の洪水被害が低減されます。

主な洪水状況

洪水生起年月	気象状況	基準地点椿川		被害状況※1
		流域平均 2日雨量(mm)※3	ピーク流量 (実績流量※2) (m ³ /s)	
明治27年 8月	前線の停滞	—	—	死者・行方不明者334名、流失・全壊戸数1,594戸、浸水18,947戸 【出典】(2)
明治43年 9月	前線の停滞	206	—	流失・全壊戸数6戸、床上浸水5,247戸、床下浸水2,770戸 【出典】(2)
昭和19年 7月	前線の停滞	222	—	死者11名、流失・全壊戸数19戸、浸水家屋7,279戸 【出典】(2)
昭和22年 7月	前線の停滞	238	—	死者11名、流失・全壊戸数308戸、床上浸水13,102戸、床下浸水12,259戸 【出典】(2)
昭和22年 8月	前線の停滞	158	—	死者7名、流失・全壊戸数113戸、床上浸水4,335戸、床下浸水7,631戸 【出典】(2)
昭和30年 6月	前線の停滞	156	3,811	死者・行方不明者8名、流失・全壊戸数23戸、床上浸水11,522戸、床下浸水21,067戸 【出典】(2)
昭和40年 7月	前線の停滞	126	2,807	流失・全壊戸数9戸、床上浸水2,885戸、床下浸水10,162戸 【出典】(1)
昭和41年 7月	前線の停滞	132	2,218	床上浸水255戸、床下浸水1,181戸 【出典】(1)
昭和44年 7月	前線の停滞	142	2,485	床上浸水158戸、床下浸水2,147戸 【出典】(1)
昭和47年 7月	前線の停滞	182	3,298	流失・全壊戸数4戸、床上浸水1,465戸、床下浸水3,439戸 【出典】(3)
昭和54年 8月	前線の停滞	135	2,693	流失・全壊戸数1戸、床上浸水77戸、床下浸水1,001戸 【出典】(1)
昭和56年 8月	台風15号	126	2,283	床上浸水2戸、床下浸水9戸 【出典】(1)
昭和62年 8月	前線の停滞	157	3,258	床上浸水534戸、床下浸水1,040戸 【出典】(1)
平成14年 8月	前線の停滞	126	2,303	床上浸水159戸、床下浸水351戸 【出典】(3)
平成19年 9月	前線の停滞	157	3,121	床上浸水35戸、床下浸水238戸 【出典】(1)
平成23年 6月	前線の停滞	168	3,463	全壊戸数1戸、床上浸水120戸、床下浸水325戸 【出典】(1)

【出典】(1)秋田県消防防災課調べ、(2)秋田県災害年表、(3)水害統計から記載

※1 被害状況：死者・行方不明者、流失・全壊戸数には土砂災害を含む場合がある(昭和30年代以前は内訳不明)

平成23年の全壊戸数1戸は土砂災害による)床上浸水戸数、床下浸水戸数には内水によるものを含む

※2 実績流量：観測水位からHQ式(川の水位でその時の流量が計算できるようにした式、水位流量式ともいう)を用いて算定

※3 流域平均2日雨量：対象洪水が発生した時に降った雨で、雄物川流域における2日間(48時間)の平均降水量

昭和22年7月洪水

雄物川全川にわたり既往の最高水位を超過し、氾濫区域は流域平地部の60%に及んだ。



昭和47年7月洪水

被害は無堤部※の多い中流部及び大雨が降った玉川、桧木内川（ひのきないがわ）流域に集中した。



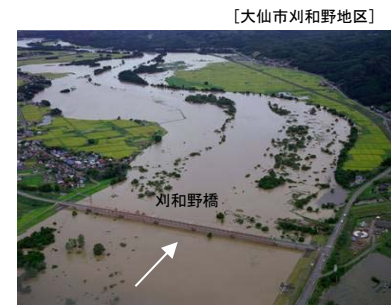
昭和62年8月洪水

観測開始以来最高水位を各所で記録し、無堤部※や低い土地では浸水被害が発生した。



平成19年9月洪水

無堤部※の多い中流部及び下流部に集中して浸水被害が発生した。



平成23年6月洪水

神宮寺水位観測所及び長野水位観測所で氾濫危険水位を超え、神宮寺水位観測所では観測開始以来最高水位を観測した。



※ 無堤部 : 堤防の無い箇所

Q2-2

雄物川流域の渇水被害はどのようなものがあったのですか？

回答

雄物川流域における主な渇水は、深刻な被害をもたらした昭和48年をはじめ、昭和53年、昭和59年、昭和60年、平成に入ってから3年に1度と頻発しています。

平成6年、平成24年の渇水は、渇水期間が長く、平成6年は上流部で上水道の減圧給水※1や時間給水※2を実施しました。平成24年には玉川ダムの貯水率が過去最低まで低下する渇水となりました。

成瀬ダムの建設により、雄物川における流水の正常な機能の維持のための流量を確保し、河川環境の保全や安定的な水利用を図ることが可能となります。

雄物川の渇水被害状況

渇水年	主な渇水被害の概要
昭和48年	<ul style="list-style-type: none"> 秋田県内で干ばつが発生。 このため、稲作34,042ha、畑作14,849ha、果樹3,944ha、養殖魚等に合わせて28億7,703万円の被害がでた。
昭和53年	<ul style="list-style-type: none"> 上流域を中心とした湯沢市、大森町13市町村(18水道)では、7月上旬から8月中旬まで高温と日照が続く、渇水による断水や減水※3が発生し、県内では計11億2,771万円余りの被害がでた。
昭和59年	<ul style="list-style-type: none"> 上流域の湯沢市、横手市、大森町では、7月下旬から8月上旬まで異常高温と日照りが続き河川流量の減少。 利水者に渇水情報を流し、節水を呼びかける。
昭和60年	<ul style="list-style-type: none"> 上流域の湯沢市、横手市では、8月から9月まで異常高温と日照りが続き、河川流量が減少。 利水者に渇水情報を流し、節水を呼びかける。
平成元年	<ul style="list-style-type: none"> 秋田県内の農業用水が不足して、水田の亀裂、水稻の葉先萎縮等が54市町村で発生し、8,855haに20億3,110万9千円の被害がでた。 また、上流部の湯沢市や横手市、大森町等、14市町村で水道の給水制限を実施。水不足による水産被害は、6市町村で274万7千円となった。
平成6年	<ul style="list-style-type: none"> 上流域の横手市及び湯沢市上水道で、渇水による水不足のため減圧給水を実施。(横手市30%、湯沢市15%) 秋田県内の水田で約29,000haが水不足。その中心が、平鹿・雄勝地区であった。 一ヶ月近くに渡り番水※4を実施。また、配水・地下水ポンプの購入、運転、井戸の掘削と多大な経費と労力を費やした。
平成11年	<ul style="list-style-type: none"> 中流域の南外村をはじめとする川沿いの3町1村、150世帯に給水車による給水を実施。 湯沢頭首工をはじめとする川沿いの9頭首工で番水を実施。約13,500ha(12,400人)に影響を与えた。
平成12年	<ul style="list-style-type: none"> 中流域の南外村、西仙北町、大森町で6月下旬から7月下旬、8月始めから9月始めにかけて、給水車による給水を実施した。
平成13年	<ul style="list-style-type: none"> 中流域の南外村、西仙北町で5月下旬から6月中旬にかけて、給水車による給水を実施。
平成18年	<ul style="list-style-type: none"> 横手市等で8月初旬に番水を実施した。
平成19年	<ul style="list-style-type: none"> 横手市等で8月初旬～中旬にかけて番水を実施すると共に、地区内全域に「節水のお願い」についてチラシを回覧した。
平成23年	<ul style="list-style-type: none"> 湯沢統合堰をはじめとする川沿いの地区で番水を実施。最も番水が長期に及んだ地区では、7月中旬から8月中旬にかけて実施した。
平成24年	<ul style="list-style-type: none"> 玉川発電所では、玉川ダム貯水位の低下に伴い92日間の発電停止。 成瀬頭首工ならびに皆瀬頭首工がかりのいかんがい地区では、地区末端までの用水の確保が困難となり、水田の地割れ等が生じ、地下水取水による対応や用水路間の流量調整、番水等が実施された。
平成27年	<ul style="list-style-type: none"> 上流域の湯沢市、横手市では、6月中旬から8月下旬まで番水を実施した。 利水者に対し渇水状況説明のうえ節水を呼びかけた。

【出典】秋田県消防防災年報、各市町村聞き取りによる

当資料内においては、渇水被害位置を明確にする観点から、平成13年以前は旧市町村名で表記

※1 減圧給水：水道水を給水する圧力を下げて水の出る量を少なくして給水を行うこと。

※2 時間給水：水道水の給水を時間規制して給水を行うこと。(例：7:00～9:00の2時間の給水など)

※3 減水：水道水の水量が減ること。

※4 番水：渇水や干ばつ等による被害を最小限に食い止めるために行われる水の配分制度。(時間別やブロック別など)



平成6年8月19日

① 給水活動状況（平成6年8月：西仙北町）



平成6年7月22日

② 使用中止になったガソリンスタンドの洗濯機（平成6年7月：湯沢市）



平成6年8月2日

③ 地割れをおこした水田（平成6年8月：平鹿町）



平成6年8月16日

④ 水不足で枯れ始める稲（平成6年8月：平鹿町）



平成6年8月

⑤ 日照りにより枯れたリンゴ（平成6年8月：増田町）



⑥ 給水活動の状況（平成11年8月：増田町）

※平成13年以前は旧市町村名で表記

渇水は観光へも影響！

写真出典:仙北市HP
湖面に立つ「たつこ像」



7 陸の上に立つ露わとなった「たつこ像」
(平成24年10月：仙北市)



8 遊覧船の運行休止 (平成24年10月：仙北市)



9 湖水位の低下した田沢湖の状況 (平成24年10月：仙北市)



10 玉川ダム貯水池の状況 (平成24年9月：仙北市)



11 皆瀬ダム貯水池の状況 (平成24年9月：湯沢市)

Q2-3

成瀬ダムの地盤は、安全なのですか？

回答

成瀬ダム建設予定地の地盤調査については、国土交通省河川砂防技術基準調査編(平成26年度4月改訂版)や貯水池周辺の地すべり調査と対策(平成22年12月改訂版)等に基づき、専門家のご意見を伺いながら、ダム建設予定地の調査ボーリング※1、調査横坑※2、第四紀断層※3調査など多くの地質調査を行っています。

これらから得られた地質情報より地質構造を把握し、ダムの基礎岩盤としての評価を行い、ダムを築造するための十分な強度を有しており、ダムを安全に保つ地盤であることを確認しています。



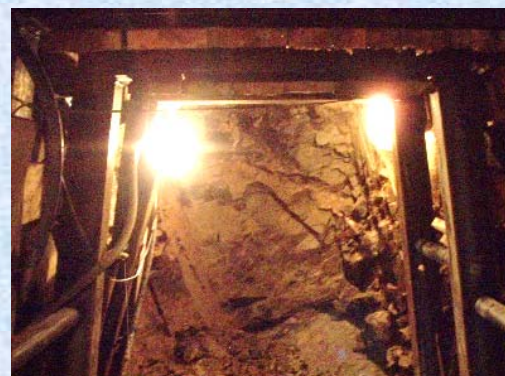
ダムサイト周辺の調査ボーリング※1状況



調査横坑※2の出入口状況



調査ボーリング※1により採取した岩盤(コア)の状況



支保工を組み立てながら調査横坑※2内を掘削して、岩盤状況を観察します

※1調査ボーリング

基礎地盤の調査の基本となる手段である。ボーリングマシンによって地盤に孔(あな)をあけ、そこにある表土や岩を採取する。この採取した試料より地盤の構成などがわかります。

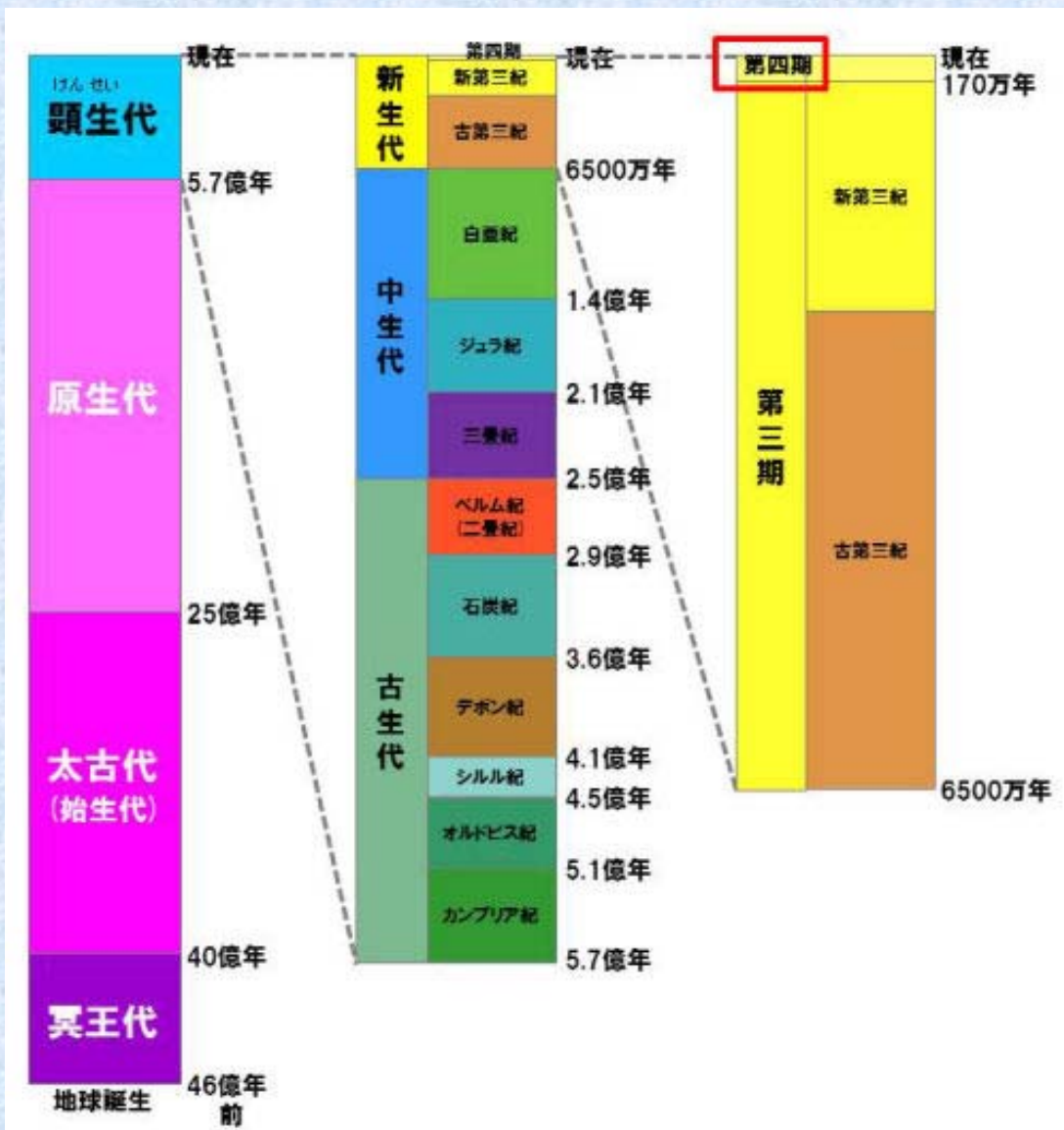
※2調査横坑(ちょうさおうこう)

ダム建設予定地や材料山において、地盤や岩盤の構成や状況を実際に目で見て確認するためや、岩盤の試験を行うために掘削した、小断面の横穴のことをいいます。

長いもので、100m～200mも掘削して調査することもあります。

※3 第四紀断層

地質時代の第四紀(約170万年前～現在)に活動した断層で、その内、後期(約50万年前～現在)に繰り返し活動し、最新活動時期が10万年程度よりも新しく、今後も活動する可能性がある断層は、活断層と呼ばれます。なお、第四紀断層であっても、活断層でなければ、ダム建設に支障はありません。



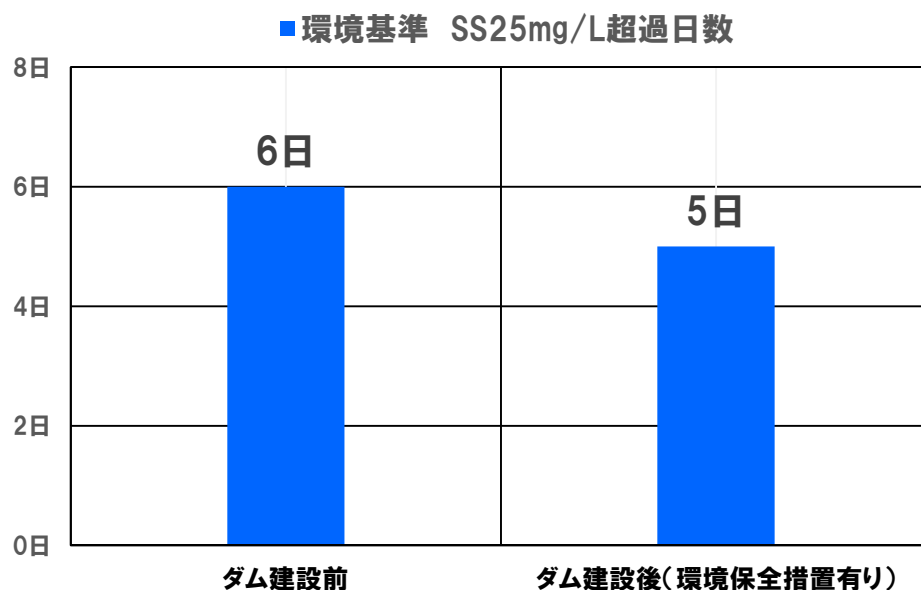
Q2-4

成瀬ダムが出来ると、成瀬川の濁りが長期化するのではないですか？

回答

成瀬ダム建設前後の水の濁りの変化について、至近10カ年の流況シミュレーションを行った結果、大規模な出水が発生した場合には、濁りが継続することがありますが、水質汚濁に係る環境基準の項目であるSS(浮遊物質)が環境基準値を超える日数は、ダム建設前は年間で6日、ダム建設後は年間で5日と予測され、ダム建設前後を比較するとほぼ同程度となります。

このため、ダム建設に伴う川の濁りの長期化は発生しないと考えています。



至近10カ年の流況で水の濁りをシミュレーションした結果です。環境基準SS25mg/Lを超過する日数の10カ年平均値を示します。

成瀬ダムの流況シミュレーション結果の詳細については、下記URLでご覧いただける「成瀬ダム環境保全への取り組み」に掲載されております。

<http://www.thr.mlit.go.jp/narusedam/kankyoku.html>

Q2ー5

成瀬ダム周辺に重要種はどれくらいいるのですか？

回 答

成瀬ダムでは、平成4年から専門家のご意見を伺いながら環境調査を行っています。

成瀬ダム周辺における現地調査の結果、植物については、種子植物・シダ植物78種、蘚苔類1種、植物群落1群落の計79種1群落の重要種が確認されています。

動物については、哺乳類23種、鳥類38種、爬虫類1種、両生類5種、魚類10種、陸上昆虫類等27種、底生動物8種、陸産貝類7種の計119種の重要種が確認されています。

成瀬ダム周辺の動植物調査結果の詳細については、下記URLでご覧いただける「成瀬ダム環境保全への取り組み」に掲載されております。

<http://www.thr.mlit.go.jp/narusedam/kankyuu.html>

Q2-6

ダム建設に伴い重要な動植物の保全措置はどのように行うのですか？

回答

成瀬ダムでは、平成4年から専門家のご意見を伺いながら環境調査や、環境保全措置を行っています。

植物については、平成5年から現地調査を実施し、事業実施により大きな影響を受け、移植が必要な重要な植物18種のうち、付替道路工事等により影響を受ける「エビネ」「イヌマムカゴ」「アイズスゲ」「イトモ」「エゾノチャルメルソウ」「ナベクラザゼンソウ」の適地への移植を平成16年、平成17年、平成29年に実施し、現在モニタリング調査を継続しているところです。

動物については、事業実施により大きな影響を受ける4種（ヒメアカネ、ヒメシジミ本州・九州亜種、ヒメシロチョウ、ゲンゴロウ）について、ダム事業実施区域又はその周辺に生息環境を整備する予定です。現時点では専門家のご意見を伺いながらモニタリング調査を継続しています。

引き続き専門家のご意見を伺いながら、工事の際の配慮や保全措置を行っていきます。

エビネ



イヌマムカゴ



アイズスゲ



イトモ



エゾノチャルメルソウ



ナベクラザゼンソウ



Q2-7

新聞記事では、「イヌワシ」や「クマタカ」が工事現場付近に生息しているようですが、ダム建設工事の影響はないのですか？

回答

成瀬ダムでは、これまでイヌワシ・クマタカに配慮した調査及び工事を実施しています。

調査においては、ダム建設予定地の周辺地域を対象に、「猛禽類※1保護の進め方(改正版)ー特にイヌワシ、クマタカ、オオタカについてー」(環境省自然環境局野生生物課策定)に基づき行っています。調査の結果、これまでに絶滅危惧種※2である「イヌワシ」1ペア、「クマタカ」3ペアの生息を確認しています。

また、平成10年に設置した「成瀬ダムに係るイヌワシ・クマタカ調査委員会」では、専門家から指導・助言をいただきながら、調査方針や工事の際の配慮事項など保全措置の検討を行っています。

こうしたなかで、これまでイヌワシ、クマタカの繁殖や幼鳥の巣立ちを確認しており、現在のところ工事実施による繁殖活動への直接的な影響はなかったと評価しています。

なお、今後も引き続き、希少種への配慮を行いながら調査及び工事を進めていきます。



「イヌワシ」の成鳥



「イヌワシ」のヒナ
(平成26年5月25日撮影)



「イヌワシ」幼鳥の飛翔状況
(平成26年9月2日撮影)



「クマタカ」の成鳥

※1 猛禽類(もうきんるい)とは、獲物を捕らえるために、その体を進化させた鳥の仲間をいいます。彼らは、狩りをするために、よく見える目と、鋭い爪とくちばし、そして強くて丈夫な脚を持っています。猛禽類はタカとフクロウの仲間に分けられ、タカの仲間は主に昼に行動し、フクロウの仲間は主に夜に行動します。いずれも、生態系の頂点に位置する生き物です。

※2 絶滅危惧種(ぜつめつぎんしゆ)とは、絶滅の恐れの高くて高い野生生物の種をいいます。

Q2-8

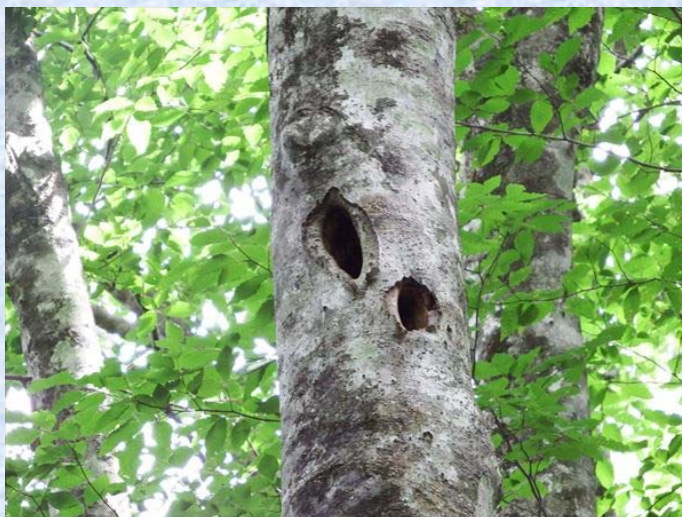
新聞記事では、建設予定地で「クマゲラの古巣」とみられる跡が発見されたと書いてありましたが、成瀬ダムにクマゲラはいるのですか？

回 答

成瀬ダムの事業区域及びその周辺において、平成4年度より環境調査を行ってきています。平成5年度と平成7年度の調査において、湛水区域外にクマゲラのもので推察される古巣または罅（ねぐら）の跡を4カ所で確認しています。その後も引き続き生息調査を実施しており、湛水区域内外でクマゲラのもので推察される古巣や罅の跡を確認していますが、クマゲラの個体は確認していません。

クマゲラについては、「成瀬ダム環境保全への取り組み」※1において、「事業の実施により生息環境であるブナ自然林の一部が改変されますが、周辺に広く残存するブナ自然林において生息は維持される。」と評価しています。

クマゲラの可能性がある痕跡



※1 : 成瀬ダムでは、平成11年に閣議アセスに基づく環境影響評価の手続きを完了しておりますが、その後も法アセスに準じた調査及び環境保全対策の検討を続けており、それらの結果を「成瀬ダム環境保全への取り組み」としてとりまとめております。
「成瀬ダム環境保全への取り組み」は、下記URLでご覧いただけます。

<http://www.thr.mlit.go.jp/narusedam/kankyoku.html>

Q2-9

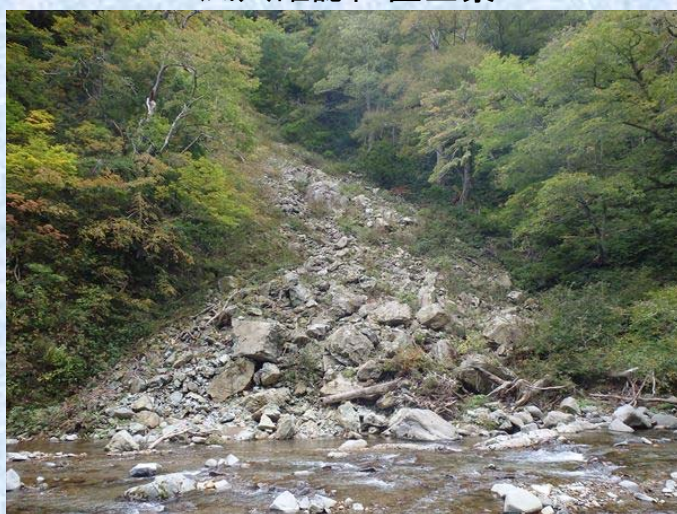
新聞記事では、建設予定地で風穴群が発見されたと書いてありましたが、この風穴群について教えてください。

回 答

成瀬ダム建設予定地周辺において、風穴※があることは現地調査で確認しております。

しかし、この風穴については、専門家から「山地では一般的に認められる地形であり、学術上等の観点から重要なものではない」と評価されております。

風穴確認位置全景



風穴近景



※風穴：崩落した岩石が堆積したところから、できた石のすき間から、冷気が吹き出る現象のことです。

Q2-10

成瀬ダムができると赤滝はどうなるのですか？

回 答

赤滝は、成瀬ダムの湛水区域内にあるため、ダム湖に水没することとなります。赤滝は、雨乞いの滝として知られており、森林浴や散策での利用者が多く、特に秋季に紅葉見物に多くの人を訪れております。成瀬ダムでは、赤滝に関する情報を後世に伝えるため、既往の調査内容を記録保存する予定です。



赤滝

Q2-11

夢仙人大橋から栗駒山方向へトンネル工事をしていますが、いつ頃開通するのですか？

回答

成瀬ダム建設に伴い、水没することとなる国道342号は、一般交通やダム建設工事に支障がないよう、ダム完成までに付け替える必要があります。

夢仙人トンネルから栗駒山方面に向かう二次供用区間の2号トンネルは、平成28年度から工事に入り、完成は平成30年度の予定です。その後、橋梁工事(2号橋)を行い、平成35年度に付替国道の全線供用を目指しております。

成瀬ダム計画平面図



Q2-12

成瀬ダムの工事現場を見たいのですが、いつでも見学できますか？また、現場見学会のようなものは開催していますか？

回 答

成瀬ダム建設予定地では、上流迂回路脇にダム工事現場を見渡せる展望広場を整備し東屋などを平成28年度に設置しました。

どなたでもお気軽にお立ち寄りいただけます。

また、土曜・日曜・祝日及び国道342号冬期通行止期間を除き「ダム工事現場見学」を受付けております。

さらに、毎年10月に開催される「東成瀬村産業祭」にあわせて現場説明会を開催しております。

所要時間・見学箇所・見学内容についてはご相談ください。

皆様のお申し込みをお待ちしております。

展望広場全景



航空写真



『過去の現場見学会の様子』



「展望広場でのダム全体の説明」



「仮排水トンネルに入ります」



「夢仙人大橋より」

お申し込み・お問い合わせ

成瀬ダム工事事務所 調査設計課

TEL.0182-23-8438

FAX.0182-23-6369

※見学申込は、当ホームページの「ダム見学の申し込み」をご覧ください。